

卯月 20 詠

# 牡丹

たなか 踏基



ぼうたんの  
薬を乱だして  
襟の紅絹(もみ)

白牡丹  
紅浮くほの  
片ころ

逢ふ瀬なく  
ひねもす暮るる  
牡丹かな

緋牡丹や  
裾割るほのこ  
しゃがみあり

めぐり逢ひて  
魅す三刻の  
牡丹寺

黄牡丹を  
愛でて女時や  
岩田帯

別れ際  
牡丹崩れる  
鐘の音

牡丹園  
百花百韻  
ありにけり



緋牡丹は  
とらふに池を  
染めにけり

八つ口を  
抑えてわたす  
牡丹売り

崩れ落ちて  
なおしな垂れる  
大牡丹

たおやめの  
裾惹きにけり  
白牡丹

うすずきし  
庭にしるべの  
牡丹かな

貴婦人を  
仰ぐ牡丹の  
散りにけり



まな裏に  
踊子群れて  
紅牡丹



逐情に  
至る幻夢か  
黒牡丹

背信の  
文や牡丹の  
香の猛き

牡丹園  
笑う千花に  
ピアノの音

緋牡丹や  
脱がせてみたき  
緋縮緬

八重牡丹  
髪に結びし  
手絡(てがら)かな